

科目名	美術考古学			科目コード	5207
開講学科	学芸員課程	単位数	4	形態	講義
教員名	池田 淳				
授業の目的及びテーマ					
本授業では、博物館学芸員に求められる日本文化を通史的に理解する能力の基礎として、日本の原始から古代までの芸能を考古学的資料なども含めて包括的に理解する能力を身に着けることを目指している。					
授業概要					
本授業では、主に古代における芸能の成立と展開を対象としている。基本的にはテキストに従って、「古代芸能の形成」「東洋的楽舞の伝来」「都鄙の芸能」という三つの柱を設定している。第1回～第2回は日本の芸能の歴史についての概説的理解、第3回～第8回は「古代芸能の形成」、第9回と10回は「東洋的楽舞の伝来」、第11回～第15回は「都鄙の芸能」の理解を目的としている。					
授業計画					
第1回：芸能史の文化史的意義と、芸能とは何かについて理解する。(テキスト序章・序論Ⅰ)					
第2回：日本の芸能を理解する上で重要な芸能論と環境論などの幾つかの視点を理解する。(テキスト序論Ⅱ)					
第3回：芸能のおこりと、その前提となる呪能について理解する。特に、土偶などの考古学的資料をもとに、縄文時代を中心とした芸能の萌芽を理解する。(テキスト序論Ⅱ)					
第4回：弥生時代になり生業の場が固定化されてくるのにもない、「まつりの場」が設けられ、その場で巫覡たちの呪術がおこなわれ、それが後世「神遊び」などへの繋がる道筋を理解する。(テキスト第二章「二 芸能への道」)					
第5回：縄文時代から弥生時代への進展とそれに伴う芸能の変化について理解する。(テキスト第二章「二 芸能への道」)					
第6回：『古事記』・『日本書紀』などに記される日本神話に登場する芸能などから第4回の巫覡たちの芸能を理解する。(テキスト第二章「二 芸能への道」)					
第7回：古代においてムラが連合して「クニ」が形成される過程で、巫覡による呪術的な芸能に加えて、首長に奉仕する芸能が登場する。さらにヤマト王権が成立すると各地域の土風と呼ばれた芸能がヤマト王権のものに集中する。この過程とそのことが王権の支配強化につながっていることを理解する。(テキスト第二章「三 宮廷と民間」)					
第8回：古代における隼人舞や久米歌のような服属芸能の有り様を日本神話の事例などを通して理解する。(テキスト第二章「三 宮廷と民間」)					
第9回：伎楽の受容とその芸能を理解する。(テキスト第三章「東洋的楽舞の伝来」「一 三国楽と伎楽」)					
第10回：伎楽が芸能の卑俗であるとされ、律令国家の儀礼としての地位を喪失するのに代わって三国楽が導入される過程と、その後の雅楽寮の成立までを理解する。(テキスト第三章「東洋的楽舞の伝来」)					
第11回：雅楽寮で養成・支配された楽舞は、国家支配に有用な芸能であった。見せる芸能として興味を引く内容ではなかったため、曲芸や幻術的要素の強い散楽が登場する。散楽が後代の芸能に与えた影響についても理解する。(テキスト第三章「東洋的楽舞の伝来」)					
第12回：第9回の散楽が雅楽と異なり早く国家的保護を離れたため、古代都市平安京において新しい猿楽という芸能に発展したことを理解する。(テキスト第四章「都鄙の芸能」「二 散楽の芸能」 参考書テキスト『日本芸能史』第二巻古代 - 中世 第二章「やすらい花の芸能」、『日本芸能史』第三巻中世「序章」「第一章「勸進の時代」も併せて参照されたい)					
第13回：平安時代に平安京やその周辺で流行をみせた田楽の三つの芸能の内、「田植を囃す楽」について理解する。(テキスト第四章「都鄙の芸能」「一 農夫・田婦の楽」)					
第14回：第13回に引き続いて、田楽の三つ芸能の内「散楽的要素の強い田楽」と「風流田楽」について理解する。(テキスト第四章「都鄙の芸能」「一 農夫・田婦の楽」 参考書テキスト『日本芸能史』第二巻古代 - 中世第二章「やすらい花の芸能」第三章「中世芸能と座」も併せて参照されたい)					
第15回：日本の人形芸について平安京から出土した考古学的資料も踏まえて理解するとともに、古代に傀儡と呼ばれた芸能者の活動を理解する。(テキスト第四章「都鄙の芸能」「三 傀儡の行方」)					
テキスト	芸能史研究会編『日本芸能史第一巻原始 - 古代』 法政大学出版会		参考文献	芸能史研究会編『日本芸能史』第二巻～第七巻 法政大学出版会	
評価方法：					
課題(第1課題・第2課題各10%)：20% 筆記試験：80%					